

長崎の観光情報発信における言語間比較に関する試み

—観光ウェブサイトを中心に—

○賈曦 (Xi JIA)

Keywords : Nagasaki、英語、日本語、テキストマイニング、情報発信

1 目的

本研究は観光ウェブサイトを中心に、長崎の観光情報の発信において言語間の差異を明らかにし、インバウンド誘致向けの観光 Web サイトにおける情報発信の有効性を高めるために、情報発信のニーズ及び課題を明らかにする試みである。

2 方法

長崎の観光情報に関しては、日本政府観光局 JNTO グローバルサイト及び長崎県が運営する観光情報サイト「ながさき旅ネット」から英語情報を、日本語情報を「ながさき旅ネット」及び「ながおし」「STLocal」から収集、それぞれに対してテキストマイニングの手法を導入し、頻出語を抽出する。その上、シソーラスを用いて関連性を視覚化し、英語と日本語の情報をまとめ、比較を行う。また、観光客へのインタビューを実施し、知りたい情報について意見を収集・分析する。その結果に基づき、長崎県における観光情報発信の改善点を考察する。

3 結果

英語による観光情報の発信が少ないことが判明し、特にイベント情報、アクティビティ情報、グルメ情報の即時更新が必要。言語による情報の多様性の違いがみられる。また、観光スポットごとの詳細な文化的背景や地域住民の視点を反映させたコンテンツの導入、モバイル端末の最適化及び個人の趣味や旅行スタイルに応じた情報を容易に入手できるよう、コンテンツを提案する機能の導入が求められていることが明らかになった。

4 結論

本研究を通じて、長崎の観光情報発信における言語間の違いや観光客のニーズを明らかにし、今後の観光情報発信の戦略に対する示唆を提供する。特に、英語と日本語の情報の整合、観光情報の多様化の充実、そしてパーソナライズ化の推進が、観光客の満足度向上に寄与する可能性が高い。

【主要参考文献】

斎藤一(2011)「Web における観光情報提供と分析」『人口知能学会誌』 26 巻 3 号, pp.234-239

大川慎(2019)「テキストマイニングを利用した観光地イメージの言語間比較に関する試み」『日本情報経営学会誌』 2019 Vol. 39, No.2, pp.85-94